

東北大学大学院情報科学研究科  
言語変化・変異研究ユニット主催

# 講演会のご案内

講師

プラシャント・パルデシ先生  
(国立国語研究所研究系教授)

日時: 2023年6月3日(土) 13時~15時  
場所: Google Meetによる遠隔開催

講演会タイトル「有対動詞の類型論: 使役交替言語地図 (WATP) から見えてくるもの」

概要: 日本語を含む世界諸語において、「美容師が髪を乾かす」⇔「髪が乾く」のように、形態的に関連があり、(i) 典型的に事態の変化およびその変化を引き起こす原因(使役者)の意味を含む動詞(使役動詞; causal verb)と(ii) 事態の変化の意味のみを含む動詞(非使役動詞; non-causal verb)との対をなす動詞が多数見つかることが知られている(日本語の「開く: 開ける」、「裂ける: 裂く」、「始まる: 始める」、「開く: 開く」、など; 以下有対動詞と呼ぶ)。言語類型論の分野では、有対動詞についての活発な議論が行われており、多言語データに基づいて行われた大規模類型論的研究では以下の興味深い一般化が提案されている。

- ① 当該有対動詞の認知的な意味と派生の方向性に関する一般化(以下有対動詞の認知類型論的な一般化)(Haspelmath (1993))
- ② 当該言語の地理的な位置と派生の方向性に関する一般化(以下有対動詞の地理類型論的な一般化)(Masica (1976)、Nichols et al. (2004))

上記の一般化は、数名の限られた研究者によって行われた研究(データの収集・分析)の結果、導かれたものである。本発表では、国立国語研究所で開発された The World Atlas of Transitivity Pairs (WATP)を用いて、上記の2つの一般化の妥当性を検証する。また、日本語の先行研究から、少数の有対動詞のデータに基づいて行われる大規模類型論的研究が孕(はら)む問題点や見落としがちな落とし穴を明らかにする。

多数の方のご参加を歓迎いたします(事前申し込み必要)

本講演会・チュートリアルは、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、および、科学研究費・基盤研究(C)課題番号20K00658(言語変化と言語発達の比較に基づく普遍文法とマイクロパラメータの解明)による補助を受けています。  
本講演会・チュートリアルの参加者の方には、開始時間直前に参加用URLをお知らせしますので、参加をご希望の方は、こちらからお申し込みください。<https://forms.gle/JVN6g28LCCfxeq4J9>

言語変化・変異研究ユニット URL:

<http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>